

著作集を刊行

無償教育をはじめ数多くの教育論を著してきた千葉大学名誉教授の三輪定宣さんが、著作集全7巻を刊行しました。東京大学で教育学の履修を始めた1960年代から2024年まで約60年間の著書や論文などを収録。教育学のさらなる発展に寄りたいとの思いを込めた著作集です。

(宮澤教)

「いま世界は、戦争、気候危機、貧困と格差の拡大など深刻な課題が山積しています。そのような中で20世紀末、ユネスコ(国連教育科学文化機関)が21世紀の諸問題の解決のために教育の役割を訴える『教育最優先』の考えと、それを理論的にリードする『新しい教育学』の構築を提唱していることに注目しました。これは人類の未来と教育、教育学に関する壮大な

千葉大学名誉教授

三輪定宣さんに聞く

国際的提言です」

「このグローバルな教育学への要請に教育研究者として、応えなければいけない。著作集を刊行したのは、『新しい教育学』の素材として役立ててほしいという気持ちからです」

一方、世界の現実には「教育最優先」の理念に反する状況であることに危機感を強めます。例えば、「教育機関に対する公財政支出の対GDP(国内総生産)比」。

経済協力開発機構(OECD)加盟38カ国平均はこの20年余で5.2%から4.3%に低下、日本は加盟国中最低の38位3.0%(2023年)です。

「これは大変な事態です。教育予算が軍事費などに吸い取られている。人類的課題の解決に不可欠な英知が国際的に衰退している証しであり、日本がその失政の

先端を走っている。このままではいけない。ユネスコの理念に立ち返ることが本当に必要なのです」

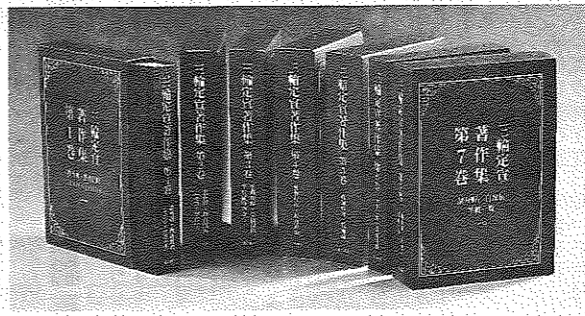
戦中の苦い体験

第2次世界大戦後の1945年に発足したユネスコ

は、憲章に「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かななくてはならない」教育は人間の尊厳に欠くことができない」と明記しました。戦後80年、その重みを心に刻んでいます。

「私の教育研究者の原点は、徹底的に『軍国少年』に育て上げられた苦い体験です」。小学校3年生まで

に育て上げられた苦い体験です」。小学校3年生まで国定教科書を少しでも読み間違えると気絶するほど体罰を受ける教育でした。敗戦直後は、丸暗記を強いた教師から教科書の墨塗りを強要されました。「真っ黒に塗りつぶしても、たたくと



三輪定宣著作集(本の泉社)

ません。悔しく、無念でした。国の教育の誤りと失敗は、国の進路を誤らせただけでなく、子どもの心に深い傷を残しました」

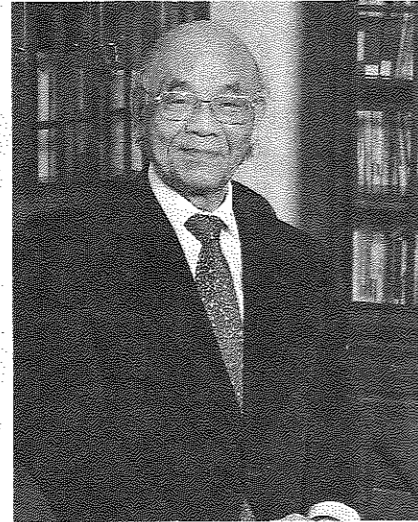
敗戦直後の学校は活気と自由があり、高校時代は政治について生徒同士の自由な討論を呼びかける教師もいました。一変したのは54年、教師の政治教育・活動を禁止した「教育2法」の成立です。「またも教科書を丸暗記の単調な授業へ逆戻り。ショックでした。あの時代のようになるのかと。

国家が教育を蹂躪することにブレイキをかけた。その気持ちから教育学部へ進学、政治と教育の関係を研究する教育行政学を専攻することになります。

共同作業として

著作集は、教育行政・財政学のほか学級・学校の規

21世紀の諸課題解決へ「教育最優先」の理念を



白石光撮影

みわ・さだのぶ 1937年生まれ。著書に『無償教育と国際人権規約』ほか多数

